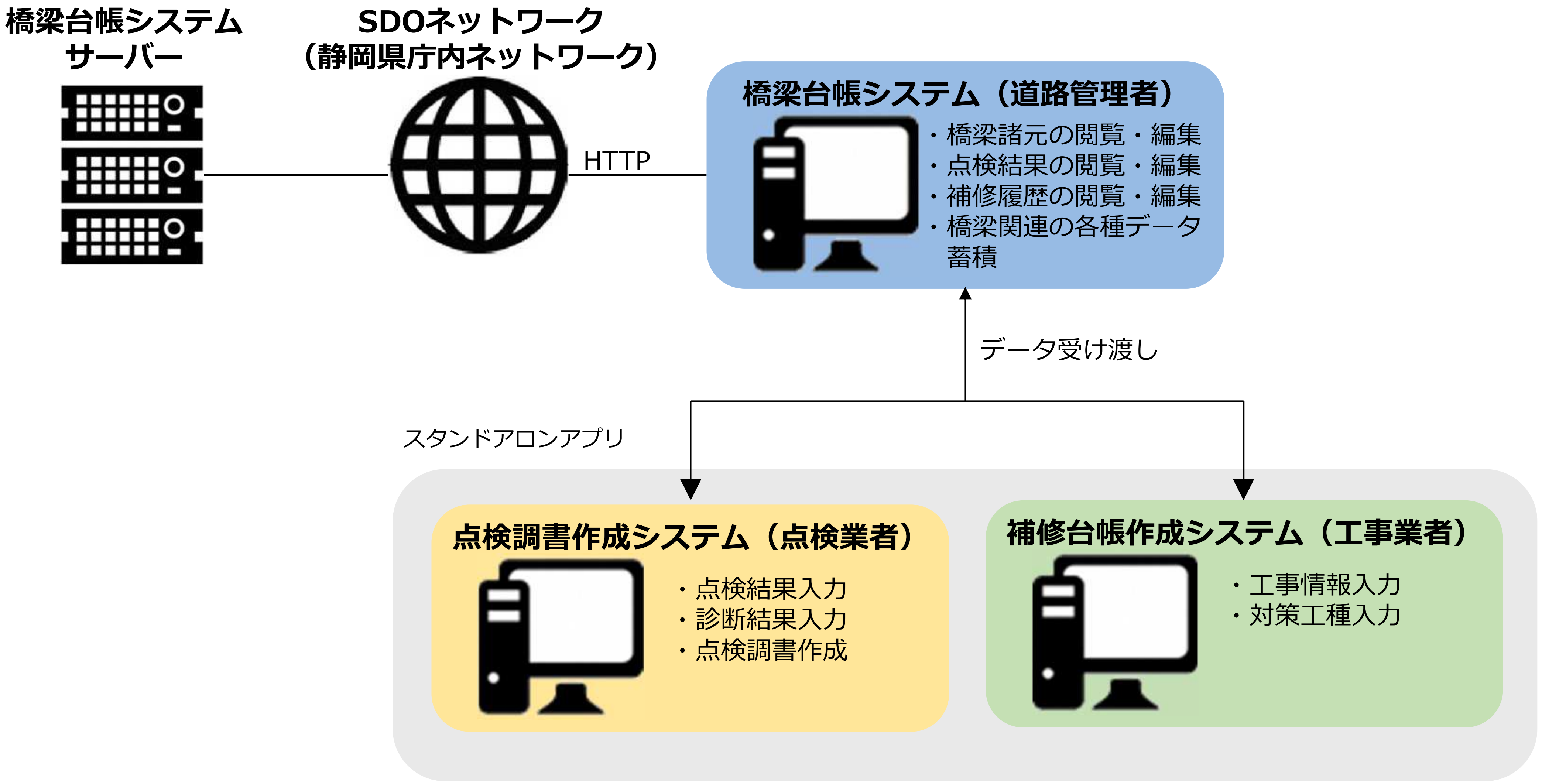
資料2

【橋梁】
２.データ取得・管理・利活用の推進

現行システムの概要

- 橋梁台帳システムを基本として、関連システムとともに橋梁の維持管理をマネジメントしている。



目的・課題・効果

● 新たな取組で取得したデータは、取組の効果検証や更なる促進のため利活用する。

目的

◆ 蓄積されたデータや知見を活かしてインフラメンテナンスの効率化・高度化すること

新たな取組 **（本委員会の検討事項）**

◆ 劣化原因『**水**』**への対応**（止水、流末処理、滞水などの対策）
◆ **新技術**の導入促進
◆ **塩害**への注視
◆ 管理体制の強化

課題

◆ 現行システムでは、新たな取組の結果をデータとして**蓄積できない。**

➡（解決策）既存のデータベースの改修

期待される効果

・各種取組は、データ取得・管理が一体となり進めることで効率化を図る。
・蓄積・分析した情報を実務・計画の見直しにフィードバックする。
・データは受発注者間で、確実に共有することで、技術力向上を図る。

データの取得と利活用

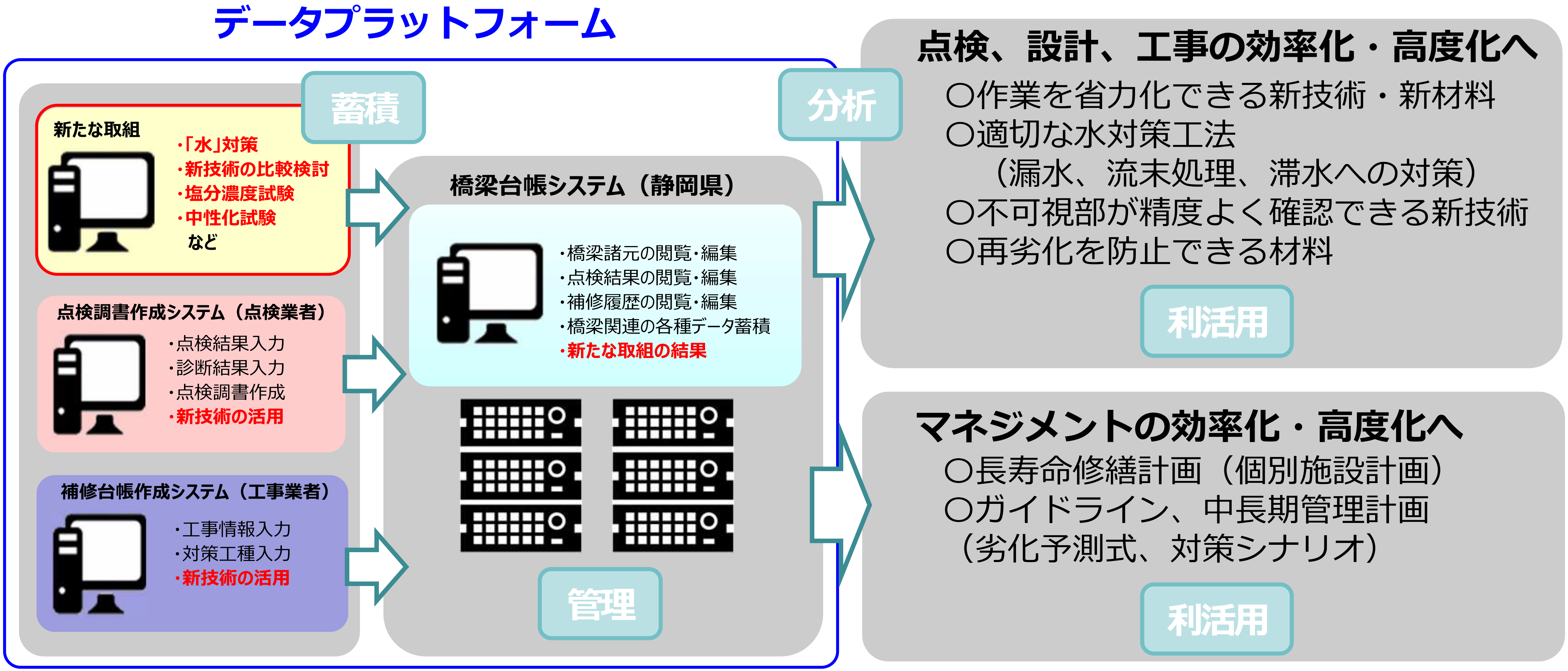
- 今後取得したデータを基に、各種取組の効果検証に活用する。
- 塩分量などの特定事象に関するデータは、予防保全対策に活用する。

<table>
<tr><th>新たな取組</th><th>取得データ</th><th>利活用方法</th></tr>
<tr><td>劣化原因『水』への対応
（漏水、流末処理、滞水）</td><td>○対策の情報
（工法、費用、施工時期、検討資料等）
○点検結果（対策実施後）</td><td rowspan="2">●工事の効果を検証し、対策工法の選定にフィードバックする。

※比較検討した結果が検証できるようにデータを1箇所（データベース）に蓄積する。</td></tr>
<tr><td>新技術の導入促進</td><td>○採用した新技術情報
（工法、費用、施工時期、検討資料等）
○点検結果（補修対策実施後）</td></tr>
<tr><td>詳細調査
（塩害への注視等）</td><td>○各種詳細調査の結果
（塩分量、中性化試験、各種非破壊・微破壊試験）</td><td>●劣化進行速度を分析し、予防保全対策を行う。
●予防的措置の実施
➡例えば、塩分含有量の浸透速度が速そうな橋梁は、表面被覆を早めに実施するなど</td></tr>
<tr><td>管理体制の強化</td><td>○三者会議等の結果
（診断区分の判定）
○点検結果</td><td>●三者会議の結果や研修会の資料などは、情報共有により技術者（受発注者）の技術力向上を図る。
●診断Ⅱの細分化の精度向上（分析）</td></tr>
</table>

橋梁台帳システム、関連システムの改修

- 既存の橋梁台帳システムを改修し、新たな取組の結果を蓄積する。
- 蓄積したデータは分析を行い、実務（点検、設計、工事）やマネジメント（計画改定）の効率化・高度化を図る。



今後の予定

令和８年度：システム設計 ➡ 令和９年度：システム開発 ➡ 令和10年度：本格運用